



漢籍の遡及入力作業で気がついたこと
——利用者としての視点から——



東京大学 附属図書館
遠藤 星希

簡単な自己紹介



- 図書館員ではない
- 書誌学専攻でもない
- 専門は中国古典文学
特に唐代の詩人李賀(791~817)の研究
- 2010年4月より附属図書館の臨時職員
として漢籍の遡及入力作業に従事

遡及入力とは?

- 遡及入力とは
→目録業務が機械化される以前に図書館に受け入れられていた資料についての目録をデータベース化していくこと
- 具体的な手順
→資料の現物を参照しながら、国立情報学研究所(以下「NII」と略す)の総合目録システム(NACSIS-CAT)を利用して書誌レコードを作成していく
- 漢籍の特殊性
→和漢古書につき記述対象資料ごとに書誌レコード作成(NIIの入力規則——コーディングマニュアル——による)


現在行っている作業について

- 作業場所
→東京大学東洋文化研究所(以下「東文研」と略す)図書室
- 作業内容
→東文研所蔵の漢籍をNACSIS-CATへ遡及入力すること
※原資料の閲覧利用頻度の高い叢書部・雑書類より開始
- 作業の成果
→現在までに、742書誌を作成、4138冊の遡及入力が完了

遡及入力作業で気がついたこと2点

※どちらも、叢書の入力であるがゆえに生じる問題

1. 叢書の書誌の作成方式の問題
物理単位型 or 内容注記型
2. 叢書の「出版年」の問題



1. 叢書の書誌の作成方式の問題

物理単位型 or 内容注記型

- A. 物理単位型方式
→叢書の書誌を「親書誌」として作成し、収録書それぞれについて、物理単位で「子書誌」を作成していく方式。作成される書誌の数は「親書誌1+(子書誌×?)」
- B. 内容注記型方式
→叢書の書誌に、内容著作注記(CW)という形で収録書を記入していく方式。作成される書誌の数は原則1つ

全国漢籍データベース協議会第11回総会(2011/03/11 @ 学術総合センター)
報告用資料 遠藤星希(東京大学附属図書館)



A. 物理単位型方式によって作成した書誌①
報告者作成(親書誌:『士禮居黄氏叢書』)

```
BOOK <B04766502> CRTDT:2011.02.10 CRTFA:<FA011962> RNWDT:2011.02.28 RNWFA:<FA011962>
CODE YEAR:1987
CNTRY:cc:TTLL:zh:TXTL:zh
TR 士禮居黄氏叢書(清)黄丕烈輯||shileiju huangshi congshu
PUB: 上海:張英館,光緒13[1887] → 親書誌のタイトル及び責任表示
PHYS: 30冊;19.3×12.8cm
VT: OH:黄氏叢書||コウシソフシヨ||huangshi congshu
VT: VT:士禮居黄氏叢書||shileikyoko shu
NOTE: 和漢古書につき記述対象資料毎に書誌レコード作成
NOTE: 石印本
NOTE: 本タイトルは目録首による
NOTE: 封面の書名:黄氏叢書
NOTE: 封面に「士禮居藏板」とあり
NOTE: 封面裏に「光緒丁亥年季秋上海張英館石印」とあり
NOTE: 子書誌あり
AL: 黄丕烈(1763-1825)||コウ,ヒレツ||huang,pi lie <DA08050534>
```

A. 物理単位型方式によって作成した書誌②
報告者作成(子書誌:『士禮居黄氏叢書』所収、『周禮』)

```
VOLG: VOL:巻第7-10
VOLG: VOL:巻第11-12,附録
TR: 周禮 12巻附札記(清)黄丕烈輯||shileiju huangshi congshu
PUB: 上海:張英館,光緒13[1887] → 子書誌のタイトル及び責任表示
PHYS: 4冊;19.3×12.8cm
VT: OH:周禮附札記||shileiju huangshi congshu
VT: VT:周禮||zhouli
CW: 周禮附札記(清)黄丕烈輯||shileiju huangshi congshu
NOTE: 和漢古書につき記述対象資料毎に書誌レコード作成
NOTE: 石印本
NOTE: 封面の書名:周禮附札記
NOTE: 出版事項は士禮居黄氏叢書<B04766502>第1冊封面裏による
NOTE: 封面に「周禮附札記」とあり
NOTE: 左右両面に有号(17)年注文(現行)内頁邊 16.8×10.3cm 自口半葉魚尾
PTBL: 士禮居黄氏叢書(清)黄丕烈輯||shileiju huangshi congshu <B04766502> 第1-4冊あり
AL: 黄丕烈(1763-1825)||コウ,ヒレツ||huang,pi lie <DA08050534>
AL: 周禮(127-200)||ジョウ,ワン||zhou,wan <DA02662545> → 親書誌のタイトル及び責任表示
```

B. 内容注記型方式によって作成された書誌①
他館作成

```
VOLG: VOL:29
VOLG: VOL:30
TR: 士禮居黄氏叢書(清)黄丕烈輯||shileiju huangshi congshu
PUB: 上海:張英館,光緒13[1887] → 親書誌のタイトル及び責任表示
PHYS: 30冊;19.3×12.8cm
VT: OH:黄氏叢書||コウシソフシヨ||huangshi congshu
CW: [1]:4 周禮 12巻附札記(清)黄丕烈輯||shileiju huangshi congshu → 子書誌のタイトル及び責任表示
CW: [5]:9 周禮 17巻附録(清)黄丕烈輯||shileiju huangshi congshu
CW: [7]:夏小正傳卷第4巻 / 傳疑(清)黄丕烈輯||shileiju huangshi congshu
CW: 夏小正傳卷第4巻 / 傳疑(清)黄丕烈輯||shileiju huangshi congshu
CW: [8]:1:9 周禮 21巻附札記(清)黄丕烈輯||shileiju huangshi congshu
CW: [1]:1:9 周禮 23巻附札記(清)黄丕烈輯||shileiju huangshi congshu
CW: [1]:9 周禮 24巻附札記(清)黄丕烈輯||shileiju huangshi congshu
CW: [1]:9 周禮 25巻附札記(清)黄丕烈輯||shileiju huangshi congshu
CW: [1]:9 周禮 26巻附札記(清)黄丕烈輯||shileiju huangshi congshu
CW: [2]:20 周禮 27巻附札記(清)黄丕烈輯||shileiju huangshi congshu
CW: 周禮 28巻附札記(清)黄丕烈輯||shileiju huangshi congshu
CW: 周禮 29巻附札記(清)黄丕烈輯||shileiju huangshi congshu
CW: 周禮 30巻附札記(清)黄丕烈輯||shileiju huangshi congshu
```

A. 物理単位型とB. 内容注記型
両方式の適用基準は何か?

※ 漢籍については、NIIの入力規則(コーディングマニュアル)で特に明文化されていない

A. 物理単位型方式
→ 収録書の種類が多い大部の叢書に適用される傾向あり

B. 内容注記型方式
→ 収録書の種類がそれほど多くない叢書に適用される傾向あり

現状⇒明確な基準はない(目録作成機関の判断に委ねられている)

※ 判断材料となっているのは、あくまで収録書の種類の多寡である。
各フィールドの繰り返し数の制限に取まることが1つの目安となっている。

・その他のタイトル(VT) → 16回まで	・内容注記(CW) → 128回まで
・注記(NOTE) → 16回まで	・著者名(AL) → 24回まで

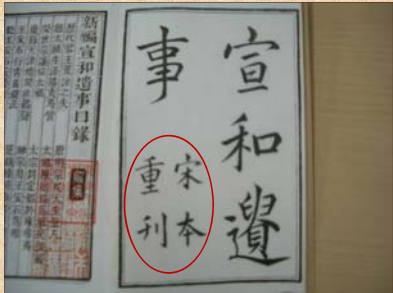
A. 物理単位型とB. 内容注記型
両方式それぞれのメリット・デメリット

	A. 物理単位型方式	B. 内容注記型方式
メリット	<ul style="list-style-type: none"> 情報量を多く詰め込める 収録書ごとの書誌情報を子書誌にそれぞれ詳しく記載できる 	<ul style="list-style-type: none"> 時間と手間がかからない OPACで叢書名を検索したとき、存在しない子書誌はヒットしないので、検索結果がスッキリ
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> 時間と手間がかかる OPACで叢書名を検索したとき、子書誌も含めて大量にヒットしてしまう 	<ul style="list-style-type: none"> 詰め込める情報量が限られる 収録書ごとの書誌情報が往々にして失われる

B. 内容注記型方式によって失われる書誌的情報

- 収録書の別タイトル
→封面・序跋・版心等に巻頭とは異なるタイトルが記載されている場合
- 収録書の内容著作注記
→収録書の中に更に複数の著作が含まれている場合
- 収録書の版式・行款
→「左右双边有界8行17字注文双行 内匡廓: 15.8×10.3cm 白口單黒魚尾」といった版式・行款は、叢書の中で往々にして不統一
- 収録書それぞれの「出版」関連情報
→叢書によっては、収録書ごとの封面等に「刊刻年」「刊刻者」「蔵版者」などの情報が記されていることがある

具体例1-2: 東文研蔵『士禮居黄氏叢書』
(光緒丁亥[1887]上海畫英館石印本)所収、
撰者不明『宣和遺事』封面裏




『宣和遺事』の成立年代を南宋代とする説の根拠の一つは、黄丕烈が「士禮居黄氏叢書」にこの書を宋本として収録していることである

B. 内容注記型方式によって作成された書誌②
他館作成



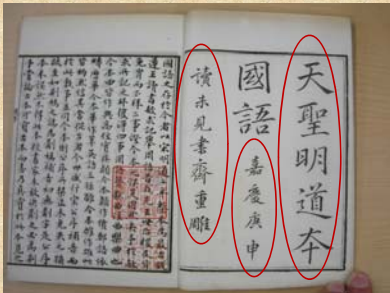
「新刊宣和遺事(重刊)センナイジ」⇒「宋本重刊」という重要な情報が消失

A. 物理単位型方式によって作成した書誌③
報告者作成(子書誌)



※ 赤枠内はBた形式報

具体例1-3: 東文研蔵『士禮居黄氏叢書』
(光緒丁亥[1887]上海畫英館石印本)所収、
呉・韋昭注『國語』封面裏

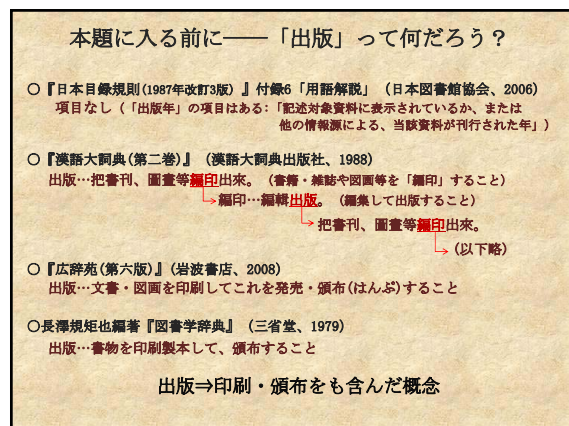
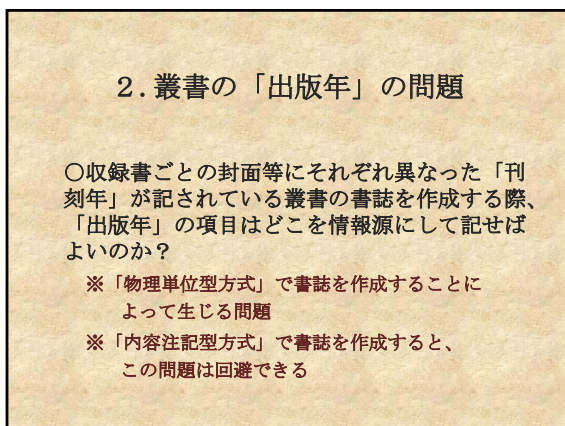
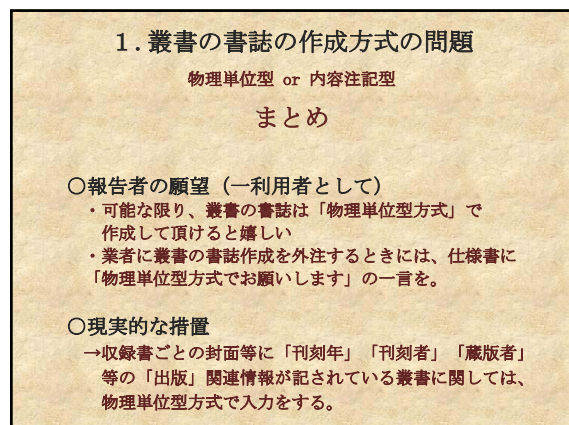
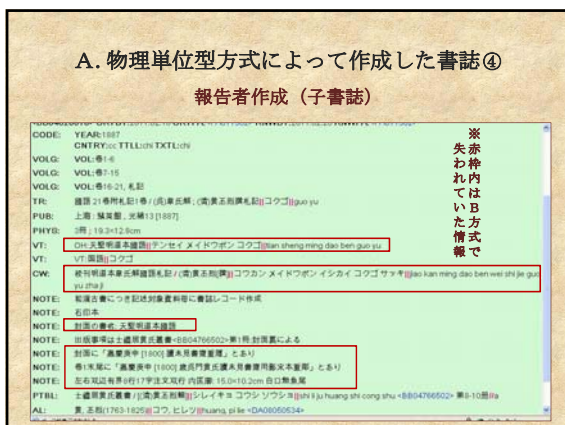
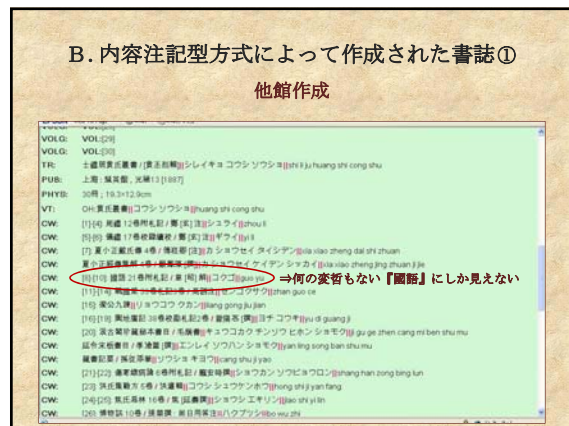
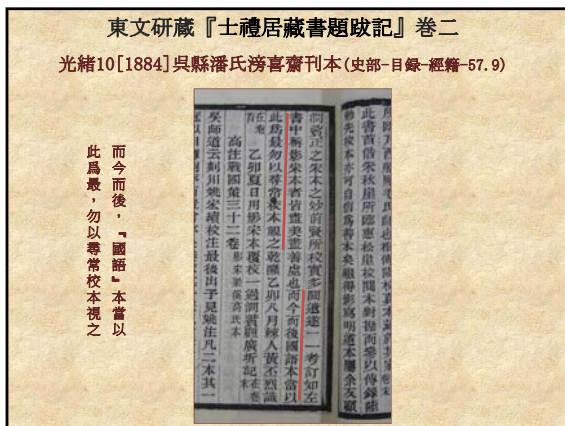


『國語』には、宋の明道二年の刊本(通称…明道本)と宋の宋公序補輯本(通称…公序本)の二系統の版本が存在している。

『士禮居黄氏叢書』所収『國語』にまつわる裏話

「今から二百二十年前、乾隆五十五年(1790年)の冬、江蘇長州の蔵書家・黄丕烈は友人から重刻公序本『國語』を譲り受け、二種類の『國語』別本すなわち陸敦先校本と惠棟校本の臨本を用いて校勘作業を行っていた。その頃、『國語』版本の主流は公序本で、何種類もの重刻版が流通していた。(中略) 宋刻明道本『國語』は早くに逸しており、抄本しか伝わっていない。しかも質のいい抄本を手にするのは容易ではなかった。黄丕烈は陸敦先校本、惠棟校本に書き入れられた校勘記を頼りに、明道本との校勘作業を行っていたのである。もどかしい作業だったと思う。五年後の乾隆六十年、黄丕烈は影抄明道本『國語』を手に入れ、校勘を施し、納得の行く校本を仕上げる。そのときの喜びは、巻頭の題記に溢れている。楷書で大きく「而今而後、『國語』本書以此爲最、勿以尋常校本視之。」(今後、『國語』はこれをもって最も優れたものとするべきで、並の校本を見る目で見えてはならない)と記された文字を眺めているうちに、私は涙がこぼれそうになった。」

※小方祥子氏「版本調査の話」(日本中国語学会「電子通訊」第49号, 2010.06)より抜粋



全国漢籍データベース協議会第11回総会(2011/03/11 @ 学術総合センター)
報告用資料 遠藤星希(東京大学附属図書館)

では、漢籍における「出版」とは？

木版印刷された漢籍では、「刊」「刊刻」という言葉がよく用いられる
→「刊」という字は「刻む、彫る」という意味。すなわち「刊年(刊刻年)」という言葉は、文字通りにとれば「版木が彫られた年」という意味になるが、実際には印刷のプロセスも含めて「刊」という語が用いられることが多い。

「刊本については、同版と異版の別に特に注意し、次に刊(版)・印(刷)の別と、さらに修と三別する。刊とは版木全部を彫り上げてから間もなく印刷出版したものをいい、印とは、すでに存在する版を使って、題簽・見返・扉・刊記以外に少しも手を入れずに印刷発行したもの、修とは、序跋や本文の文字を多少でも彫り直したものをいう。」(長澤規矩也『図解古書目録法』34頁、汲古書院、1974)

「刊→版木を制作すること。したがって、その書物が最初に印刷製本された時点を指します。印→印刷すること。「刊」からどんなに時間が経った場合でも、同じ版木で印刷したものはすべて「印」です。(細川貴司『書誌学入門』87~88頁、勉誠出版、2010)

漢籍における「出版年」≒刊年(刊刻年)

具体例 2-1 : 東文研蔵『後知不足齋叢書』(清)鮑廷璣編輯
光緒甲申[1884]常熟鮑氏刊(叢; 雜叢::17) 第一冊封面表

具体例 2-1 : 東文研蔵『後知不足齋叢書』(清)鮑廷璣編輯
光緒甲申[1884]常熟鮑氏刊(叢; 雜叢::17) 第一冊封面裏

『後知不足齋叢書』全体の刊年が示されている。「刊行」二字は、収録書すべての版木が彫られ、印刷されて世に行われたことを指していると思われる。

具体例 2-3 : 東文研蔵『後知不足齋叢書』
(光緒甲申[1884]常熟鮑氏刊)所収、
(唐)唐玄度撰『新加九經字樣』封面裏

この叢書もまた、収録書ごとの封面にそれぞれ異なった刊年が記されている。

このような叢書の出版年を、親書誌・子書誌でどのように記載するべきか

○親書誌
・もし叢書全体の刊年を推定し得る情報源がどこにもないのであれば、子書誌の最古刊年から最新刊年の間にとり、**[光緒7(1881)-光緒10(1884)]** 或いは **[光緒中]** となるが、今回の場合、封面裏に「光緒甲申仲秋常熟鮑氏刊行」と明確に記されているので、**光緒10 [1884]** と記載して問題はなからう

○子書誌
・それぞれが単独で「出版」されたものとみなされれば、**子書誌** それぞれの封面の刊記を情報源とすべき
・それぞれが単独で「出版」されたものとみなされなければ、**親書誌** の「出版年」に合わせて全て統一すべき

書名	封面裏の刊記	西暦と月
後知不足齋叢書(魏書誌)	光緒甲申仲秋常熟鮑氏刊行	1884年8月
鄭氏遺書五種	光緒十年歲在甲申仲秋八月常熟鮑氏後知不足齋校刊	1884年8月
沈氏經學六種	壬午冬日虞山後知不足齋刊	1882年冬
五經文字	癸未仲春古虞鮑氏後知不足齋刊	1883年2月
新加九經字樣	光緒癸未孟秋鮑氏後知不足齋刊行	1883年7月
干祿字書	光緒八年十一月常熟鮑氏後知不足齋刊版	1882年11月
亞肩字類	光緒九年春日後知不足齋刊	1883年春
九經補韻	光緒十年夏四月常熟鮑氏校並刊	1884年4月
許氏說文解字雙聲韻譜	光緒辛巳虞山後知不足齋刊	1881年
積古寶鑑鼎彝器款識	光緒九年癸未六月常熟鮑氏後知不足齋校乘	1883年6月
兩漢五經博士考	甲申年後知不足齋刊版	1884年
漢魏六朝志墓金石例	光緒十年歲在甲申孟春一月後知不足齋刊行	1884年1月
金石訂例	光緒甲申春常熟鮑氏後知不足齋校刊	1884年3月
禮瑞	光緒甲申五月虞山鮑氏後知不足齋校宋本刊行	1884年5月
樂文總目	光緒壬午季冬常熟鮑氏後知不足齋校版	1882年12月
第六經漢文鈔	光緒甲申仲秋八月虞山後知不足齋刊	1884年8月

全国漢籍データベース協議会第11回総会(2011/03/11 @ 学術総合センター)
報告用資料 遠藤星希(東京大学附属図書館)

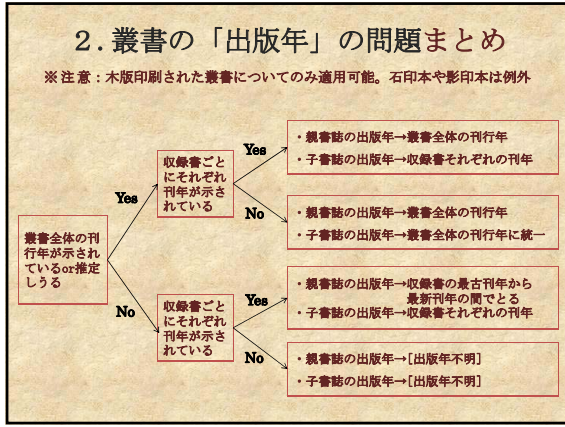
書名	1881	1882	1882	1882	1882	1883	1883	1883	1883	1884	1884	1884
		春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	春	夏	秋
鄭氏遺書五種												2冊
沈氏經學六種					6冊							
五經文字						3冊						
新加九經字樣								1冊				
干祿字書					1冊							
班固字類						2冊						
九經補韻												1冊
許氏說文解字雙聲韻譜	1冊											
顧古音韻學源流稿							4冊					
兩漢五經博士考											1冊(季節未詳)	
漢魏六朝志墓金石例											1冊	
金石訂例											1冊	
禮譜												1冊
崇文總目					5冊							
第六絃漢文鈔												2冊
年ごとの刊刻冊数	1冊		12冊				10冊					9冊

※収録書の年ごとの刊刻冊数がほぼ均等(この書書の刊行は計画的?)

収録書が単独で印刷(出版)された可能性はないのか

- ・叢書の一部と思われる端本の存在
→作成されたNIIの書誌の一般注記に「〇〇叢書の一か」と記されている資料を見かけることがよくあるが、叢書に組み込まれる前に出版されていた単行本である可能性も捨て切れない(版式・行款が同じであるので判別がつかない)
- ・今回の後知不足齋叢書の場合、収録されている書の封面に「〇〇刊行」と記されているものが3点確認できる

結論⇒必ずしも無かったとは言い切れない(子書誌はそれぞれの封面の刊記を情報源とすべき)



漢籍の遡及入力作業で気がついたこと
——利用者としての視点から——

ご清聴ありがとうございました

